

機械工学科における就職支援体制の改善

坂 田 敏 行

1 はじめに

日本経済のバブルが弾けるとともに、大学生の就職状況も激変した。筆者は平成2年度から4年度及び平成10年度から現在までの8年間、機械工学科の就職業務を担当し、バブルの弾ける前後における就職業務及び最近の先の見えない不況下の就職業務を担当した。幸いにも、機械工学科ではバブル後も「就職を希望する学生」の就職先が無い状態には至っていないが、学生の就職先は激変している。また、学生の就職に対する希望と意欲、及び就職受け入れ先の意識も大きく変化してきている。このような経験と状況の変化を考慮して、機械工学科の就職関連業務の改善を検討し、平成12年度（一部は平成13年度）から実施した。その概要について報告する。

2 新入生へのオリエンテーション

機械工学科で行っている全てのオリエンテーションについて検討した結果、入学式直後から始まる一連の新入生オリエンテーションでは「入学から卒業後の進路まで」をトータルに考えたオリエンテーションを行う必要があるとの結論に達した。入学式直後に行う新入生オリエンテーションで就職に関連した内容としては、1) 基礎学力テストと2) 学外講師による「キャリアデザイン」に関する講演が行われた。平成13年度の恵那オリエンテーションでは機械工学科の卒業生による講演を企画したが、大学の反対により実施できなかったのは残念であった。代わりに、3) 大学院生による「研究発表」を行った。この企画も好評であった。大学院進学希望者が4年後には増加することを期待したい。詳細については本誌の「機械工学科1年生オリエンテーションの改善」を参照下さい。

3 2年生へのオリエンテーション

就職に関しては最も縁の遠い学年であるが、1) 基礎学力テストを行った。また、2) 必修科目「機械設計A」の授業において、機械設計の産業界における役割、機械工学科のカリキュラムの中での位置づけ、その年度の就職・大学院進学・留学等の状況を説明し、卒業後の進路に応じて準備（学習）を行うように要望した。

4 3年生へのオリエンテーション

後期から本格的な就職用のオリエンテーションを行った（表1参照）。4年生への進級確定と同時に就職活動を可能なように、意識改革と就職の心構えを促すのが3年生のオ

表1 3年生用就職オリエンテーション・スケジュール

平成12年10月18日

平成13年度の就職関連日程

機械工学科主任
教授 坂田敏行

3年生後期の授業が始まったばかりですが、平成13年度の就職試験対策を行う時期になりました。就職試験対策に「万全」ということはありませんが、機械工学科では「皆さんに悔いの残らないように」十分な準備を行いたいと考えております。そのため、下記の日程で就職関係の業務を進めます。説明会、希望調査、個人面談等、何れも重要なものであり、最優先の課題として、スケジュールを立てられることを希望します。

- a. 第1回オリエンテーション・・・平成12年10月18日(水)
◎ 就職活動、スケジュール、模擬テスト、就職登録票、等
- b. 第2回オリエンテーション・・・平成12年11月15日(予定)
◎ 機械工学科卒業生(企業の採用担当者)の講演
(株)今仙電機製作所、品質保証本部 LH2000, TQSM 推進室部長
古賀敏則 氏(昭和46年3月中部工業大学機械工学科卒業)
◎ 就職試験対策補講(第1回、第2回)の申し込み
- c. 第3回オリエンテーション・・・平成12年12月(検討中)
◎ 就職試験対策補講(第1回)および模擬テスト
- d. 第4回オリエンテーション・・・平成12年12月(検討中)
◎ 就職試験対策補講(第2回)および模擬テスト
- e. 第5回オリエンテーション・・・平成13年1月(検討中)
◎ 機械工学科卒業生(若手技術者)の講演
◎ 機械工学科4年生の就職試験体験談
◎ 就職試験対策補講(第3回、第4回)の申し込み
- f. 第6回オリエンテーション・・・平成13年2月下旬
◎ 就職試験対策補講(第3回)および模擬テスト
- g. 第7回オリエンテーション・・・平成13年3月初旬
◎ 就職試験対策補講(第4回)および模擬テスト
- h. 第1回希望調査締切・・・・・・・・平成13年3月初旬
- i. 第1回希望調査集計結果発表・・・平成13年3月中旬
- j. 第8回オリエンテーション・・・平成13年3月進級確定後
◎ 就職業務の方針、手続き等の説明
- k. 第2回希望調査締切・・・・・・・・平成13年3月末頃
- l. 第2回希望調査集計結果発表・・・平成13年4月初め
- m. 就職担当教員と学生との個別面談・平成13年4月授業開始と同時に
◎ 希望先を確定し、推薦書発行の可否を伝える。
- n. 推薦書発行の受付開始・・・・・・・・平成13年4月個別面談終了後

リエンテーションの目的である。最初のオリエンテーションでは表2に示す資料に従って、就職に関する注意・心構え・今後のスケジュール等を説明した。また、基礎学力テストを含む就職試験対策補講を4回行い、就職試験における筆記試験に慣れるようにした。さらに、機械工学科卒業生による講演会も2回開催した。特に、企業での採用担当者として経験の深い卒業生の講演では、学生気分と社会人としての心構えとの落差の大きさを痛感した様であった。また、社会人2年生、修士2年生及び4年生の就職活動の報告は来るべき就職活動に非常に参考になったようである（写真1～3参照）。

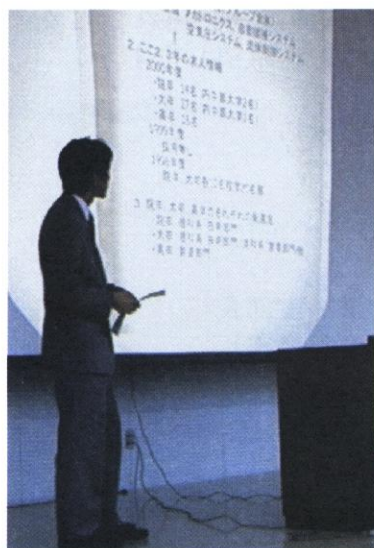


写真1 伊藤 努 氏
(社会人2年生)



写真2 藤原圭司 氏
(4年生)



写真3 高田 弘 氏
(修士2年生)

5 卒業研究の仮配属

機械工学科では11月頃を目途に3年生を対象に卒業研究の仮配属を行っている。卒業する4年生と新4年生の間で実験・理論等の引継が円滑に行われ、4年生進級直後からレベルの高い卒業研究を継続できるようにするのが第1の目的である。第2の目的は就職活動の経験及び就職の情報が4年生から3年生に受け継がれることである。

6 4年生への就職支援

平成12年度より、機械工学科の就職支援体制を表3のように一新した。この結果、全ての教員が就職支援業務を担当することになるとともに、学生は1年生から4年生までの全学年で就職を意識した活動に参加することになった。また、学科の事務室は原則として9時から17時まで窓口業務を行う体制とした。特に、夏季休業中も全学休業日の約1週間を除き、主任、就職担当者及び事務員は分担して就職業務を行っている。

表2 3年生用就職オリエンテーション資料

平成12年10月18日

平成13年度の就職について

機械工学科 就職担当

平成13年度の就職状況は平成12年度と同程度と予想されます(平成12年度は10月時点で就職を希望する学生諸君の70%以上が内定を得ています)。すなわち、就職を希望する学生諸君が真面目に就職活動を行えば、就職先を確保出来ない事態にはならないと考えられます。しかしながら、企業の学生諸君に対する選別の目は厳しいものがあり、自分の希望する就職先を確保するためには、就職テクニックだけではなく、基礎学力(国語、数学、英語)、時事・常識問題および大学での専門科目に関する相当の準備が必要です。機械工学科では卒業研究の仮配属を行うことにより、平成12年度に就職活動を行った4年生との接触の機会も用意しました。また、別紙の日程で諸君の就職活動の準備を援助する予定です。以下に、機械工学科としての基本的な考え方、学生諸君への要望、就職業務に関する事務処理等を記します。悔いの残らない就職活動をされることを希望します。

1. 基本的な考え方

- a. 求職活動、就職先の選定等は学生が行うべきものである。
- b. 職業選択の自由は保障されている。
- c. 就職の資料は公開する(7号館5階の機械工学科就職資料室)。
- d. 他人に迷惑を及ぼさないように、節度ある活動を行うこと。
- e. 求人雑誌、インターネット、就職指導センターの資料等を活用して積極的に情報を収集すること。
- f. 応募先、内定先等は必ず届け出ること。
- g. 自営、不就職、進学等の場合には早急に届け出ること。
- h. 必要な事務手続きを行わない学生には就職業務は行わない。

2. 平成13年度の目標

- a. 7月末までに就職希望者の70%、11月末までに100%の内定を目標とする。

3. 就職業務

- a. 就職の相談は、卒業研究の指導教授、就職担当の先生、および機械工学科の主任が受ける。
- b. 事務手続きは機械工学科共通室で行う(緊急の連絡が必要となる場合があるので、携帯電話等の連絡手段は共通室に連絡しておくこと)。

4. 推薦書の発行

- 1) 推薦書発行の条件……「内定企業には必ず入社すること」
- 2) 一人に一社推薦する(同時に二社には推薦書を発行しない)
- 3) 一社に一人を基本とする(二人以上を推薦する場合もある)
- 4) 就職担当者の合議で推薦者を決定する
- 5) 機械工学科主任が面接の後、推薦書を発行する
- 6) 受験結果は必ず報告すること
- 7) 下記の場合には推薦書は発行しない
 - ・ 公務員と民間企業との併願の場合
 - ・ 大学院と民間企業との併願の場合
 - ・ 縁故、自己開拓希望者

表3 平成13年度就職業務担当者

業 務	担 当 者	業 務 内 容
就職責任者	主任	推薦書の発行、会議への出席、 企業との面談、学生との面談、 企業訪問、その他
就職業務一般	4年生指導教授	推薦学生の決定、企業との面談、 学生との面談、企業訪問、その他
就職相談	卒業研究指導教授	学生との面談、企業訪問、その他
就職試験模擬テスト	各学年指導教授	就職試験模擬テストの実施

7 おわりに

学生の就職状況は当分の間大きく好転することはないと考えられる。就職（進学を含めて）の状況が悪化すれば、入学生の確保に大きな障害となることは自明である。一方、入学生の現状からは現在よりも能力・知力・気力の優れた学生を迎え入れることは夢物語であると考えられる。この状況を打破するためには、学生の能力を高める（付加価値を付ける）とともに、4年間一貫した、きめ細かい就職支援により、将来に対する夢を持ち、夢の実現に邁進する気力を有する学生を育てることが必要である。現在は十分なデータが蓄積されていないが、前述のように、1年生から4年生まで「基礎学力テスト」を行う体制が整ったので、間もなく、学年の進行とともに学生の付加価値が如何に向上しているかを検討しながら、教育内容の改善及び就職支援を行えるようになると期待している。

（教授 工学部 機械工学科主任）